

・三位一体後第十五主日

泉のほとり

今月の詩編「第十六編」

わたしは主をたたえます。

主はわたしの思いを励まし

わたしの心を夜ごと論してくださいます。

見せかけの信仰を捨てよう

主イエスは神殿で教えておられたとき、こう言われました。「律法学者に気をつけなさい」。律法学者は聖書の先生です。そして、誰よりも真剣に神さまを信じて、神さまの命じられたことを真剣に守り抜こうとした人たちです。

でも、どれほど聖書をよく知っていたとしても、自分の方で神さまの言われたとおりに生きることができません。一方で、先生なので、きちんとできているようにしなければなりません。律法学者はいつも不安な気持ちで、人の目を気にして生きていました。

ところが、聖書に書いてあるとおりに、長い衣を着て歩けば皆が挨拶をし、やもめの家を訪問してお祈りすれば、喜んでくれます。そうするとうれしくなると、不安な気持ちは無くなりません。そのうちに、律法学者は、神さまが喜んでくださることよりも、人が喜ぶこと、自分がうれいことが一番大切なことになって、神さまを愛する愛を無くしてしまいました。

どんなに正しく聖書に書いてある通りに生きたとしても、神さまを愛する愛がなければ、それは間違ひ、見せかけです。主イエスは、こういう人たちは人一倍厳しい裁きを受けることになると言われました。

そう言われると、主イエスは皆が献金する様子を見つと見ておられました。お金持ちが次から次へとたくさん献金をする中、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨一枚を入れました。今なら二百円ほどです。すると、主イエスは言

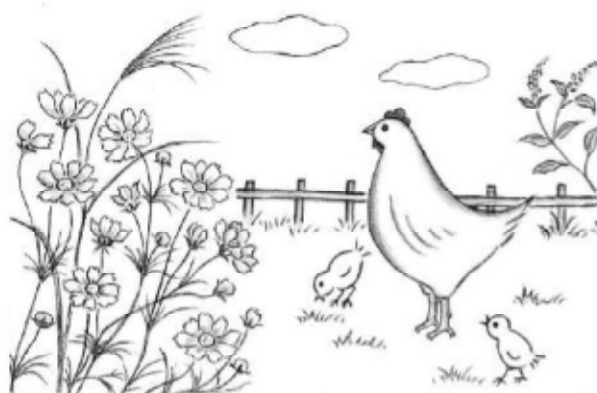
われました。このやもめは誰よりもたくさん入れた。

やもめがたくさん入れたのは、お金のことでありません。神さまへの愛です。やもめは乏しかったけれど、神さまが、儲けました。神さまが、儲けられるなら、これほど益々かなことはありません。乏しかったからこそ、神さまが働かれて、やもめは自分が思っていた以上の恵みを見せていただいたのです。

そうやってたくさん愛していただいたやもめは、この神さまだけを見て、喜んでささげ、心から神さまを愛しました。愛するということは、心も体もすべて、わたしはあなたのものです、あなたのために生きていきますということです。

神さまを愛するのはやさしいことです。それよりも、いつも人の目を気にして生き続けることの方がずっと難しく苦しいことです。神さまはわたしたちの弱さも欠点もすべて知っておられて、その上で、わたしたちを救ってくださいましたからです。神さまの前では、自分をよく見せようと頑張る必要はありません。

人の目を気にして、人の喜ぶこと、自分の喜ぶことばかり考えて、明日のことまで心配でいっぱいになっている人は、もう一度、神さまだけを見ましよう。このやもめのように安心して、すべてをおささげして、神さまを愛することができるとしよう。神さまがあなたのことを心にかけていてくださるからです。



いちばん低い場所

それ以上ない、
いちばん低い場所を
わたしにください。

わたしがそこを求めるのは
ただ主よ、

あなたがそのところで命を捨てられ
わたしは生きて、あなたのおそばで
その栄光を

分かち合えるようにと願うからです。

それ以上ない、
いちばん低い場所を
わたしにください。

それでも、わたしにとって
その場所も高すぎたのでしたら、
もっと低い場所をつくってください

わたしがそこから、
神よ、あなたのみ顔を仰ぎ
あなたをお慕いできますように。

平野克己著 「祈りのともしび」より
クリスティーナ・ロセッタの祈り

今日のお知らせ

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒーサーブイスがあります。副舎二階のリズム室ではどのような会が開かれ、礼拝で受けた恵みの分かち合いをします。

○第二礼拝後、ホールで讃美と報告の会をします。お昼はお弁当です。

○明日（○日（月）朝一〇時半から午後四時まで、東京説教塾の例会がホールで行われます。

○一二日（水）朝九時半から、来年度新入園児のための幼稚園説明会と体験入園が行われます。

○クリスマス礼拝で受洗・転入会を御希望の方は、入信記を書いて、九月二三日までに、牧師あてご提出ください。長く教会生活をしている求道中の方、また他教会員の方、一步を踏み出す決心をしましょう。

○毎年九月に、説教塾への献金をお願いします。献金の多くは地方の教会の牧師が説教セミナーなどに参加するための交通費補助に用いられます。今年も事務所のカウンターに献金袋を用意しました。ご協力を願います。献金は事務所にお預けください。

四国だより

猛暑の毎日ですが、朝夕には涼しい風が吹き抜けているように思えます。秋を待ち望みつつ、謹んで七月の牧会報告をお送り致します。

七月はとても不思議で御恵み多い、やはりアメイジング・グレイスーな月となりました。その中から伝道に関する出来事一つ御報告いたします。神学生の頃に、よく先生方から、イエス様は威光と尊厳と栄誉、光榮と力ある神で知られながら人間に寄り添って下さる素晴らしいユーマアをお持ちです」この言葉を何度も何度も聞き学んでまいりました。そして現実にも多くを体験してまいりましたが、主は私の手作りの帽子の刺繍を用いて、今回もその御恵みの中から伝道の時へと導き下さったのでした。

昨年の冬、松山から帰宅する時、西条の駅から少し歩いたところにある「カレーのお店」に立ち寄った時の事です。お店の責任者と思われる女性がそばに連れられ、「あのう、すみませんがお食事の終わった頃にお話をさせてくださいてもよろしいでしょうか？」との事に一瞬は何だろうと思いましたが、にこやかで丁寧なその様子に思わず「はい、どうぞ」と答えておりました。

食事が済むと、その女性が「そのお帽子の刺繍はご自分でなさったものですか？」と聞かれ、「はい」と答えますとにっこりなさって「色が素敵ですね」とうれいお言葉。「では、この他にも洋服などにもなされるのですね」と聞かれましたので、「ほんの細やかな趣味です。賛美歌などを聴きながら一針一針縫い進むうちに、うれしくなり楽しくなつて少々のストレスなどは吹き飛んでしまいます」と話しますと、その人は「実はこの店は西条市役所の福祉課が支援しております。作品をお借りして店内に展示させていただきますかと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します」との事。

このカフェで働いておられる方達は様々な障害を乗り越えながら、市の職員の方の指導のもとで頑張っている事がわかり、目の前で見える光景に胸を打たれました。展示の月は七月と希望されましたので、今回は夏物と決め、作品を六月末までに納める為のお祈りをし、主に感謝しておりましたら突然、主からのお示しが来しました。

(次回に続く)

聖書の会へどうぞ

9月12日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「何のために集まったのかも」

使徒19章28〜40節

黄允湜 副牧師

●聖書の夕べ(19時)

「楽園に生きる道」

ルカ23章32〜43節

吉村和雄 牧師

ミニコンサート

9月13日(木) 12時30分より

ピアノ演奏 豊谷 幸

ベルガマスク組曲他

C. A. ドビュッシー

次週礼拝

●第一礼拝(午前9時30分)

讃美歌 301番 讃21 361番

説教 「罪を取り去るために」

聖書 ヘブライ9章23〜28節

説教者 吉村和雄 牧師

●第二礼拝(午前11時10分)

讃美歌 55番 268番

説教 「深く憐れまれた」

聖書 マタイ9章27〜38節

説教者 黄允湜 副牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 301番

讃21 361番

説教 「惜しまず豊かに」

聖書 IIコリント9章6節～15節(新約P335)

司式 石川一兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 黄允湜 副牧師

前奏曲「前奏曲変ロ長調」A.D.ヴォーグ

○讃美歌 301番

1. 山べにむかいてわれ 目をあぐ
助けはいずかたより きたるか
あめつちのみかみより たすけぞわれにきたる
2. み神はなれの足を つよくす
み守りあればなれば うごかじ
みたみをば守るもの まどろみねむりまさじ
3. み神はあだをふせぐ たてなり
ながみをつねに守る かげなり
よるは月、ひるは日も なれをばそこなうまじ
4. み神はわざわいをも さけしめ
疲れしたましいをも やすます
いずるおり、いるおりも

たえせずなれを守らん アーメン

○ピアノによる讃美

「ゴルトベルク変奏曲 アリアと第一変奏」J.S.バッハ

○讃21 361番

1. この世はみな 神のせかい
あめつちすべてが 歌いかわす
岩も木々も 空も海も
み神のみわざを ほめたたえる
2. この世はみな 神のせかい
鳥の音 花の香 主をたたえる
朝日 夕日 空に映えて
み神のみわざを 語り告げる
3. この世はみな 神のせかい
悪魔の力が 世に満ちても
わが心に 迷いはなし
主こそがこの世を治められる アーメン

聖餐曲「アンダンティーノ」D.ハローザ

後奏曲「ソワソンの鐘」M.デュルカ

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 54番 251番

詩篇 第16編(旧約P845)

説教 「神の怒りは天から」

聖書 ローマ1章18節～23節(新約P274)

司式 石川一兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「我ら唯一の神を信ず」J.S.バッハ

○讃美歌 54番

○ピアノによる讃美

「ゴルトベルク変奏曲 アリアと第一変奏」J.S.バッハ

○聖歌隊による讃美

「主の心を」P.ルグストラット

主のこころを おのが心とせよ

主は神の形であられたが

神と等しくあろうとされず

おのれを空しくなし しもべの形を取りて

人のごとくなれり

おのれを低くにして

十字架の死に至るまで 従われた

神は彼を引き上げ 全てに勝る名をたまえり

そは 御名により 天と地と

地の下のもの全て ひざかがめ

舌もてイエスこそは 主と述べ

神の栄光 たたえるため

主の御心 我がうちにすみたまえ

心と行い導き手て 海に満ちる水のごと

主の愛 我に豊かに満ちたまえ

主のみを見上げて 進ませたまえ

勝利の望みは 主にあり! アーメン

○讃美歌 251番

聖餐曲「イエスはわが喜び」J.G.ガッダ

後奏曲「ソワソンの鐘」M.デュルカ